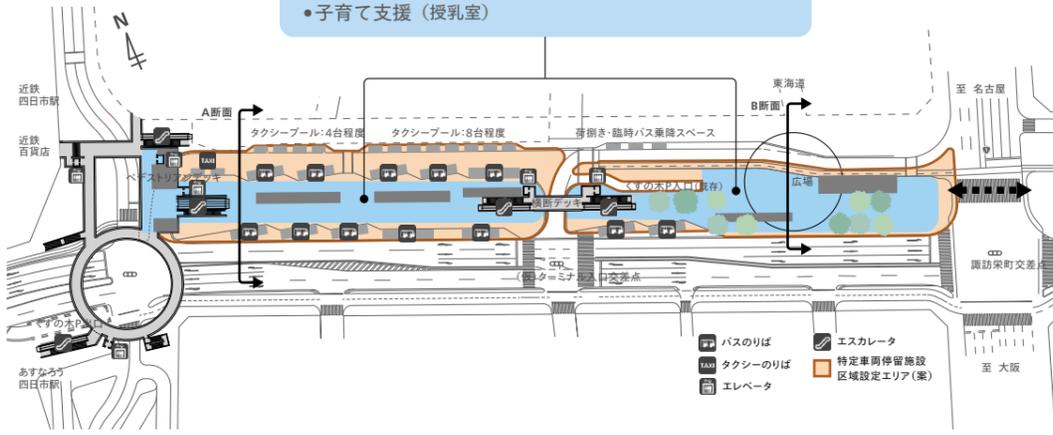


7. 交通結節点のデザイン（バスターミナルの整備に係る事項）

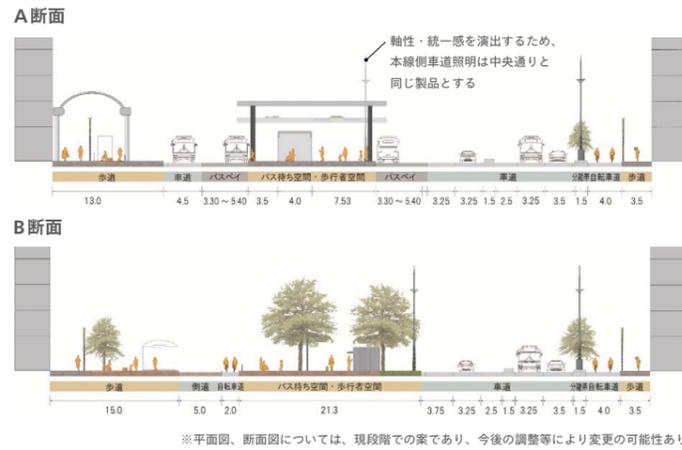
四日市バスターミナルの基本目標

- バス停の集約・スマート化による交通結節機能の強化
- 駅周辺と一体となった賑わい・歩行空間の創出
- 歩行者の円滑な移動・乗換を支援する交通拠点の整備
- 防災機能の強化
- 並木空間の再編による魅力あるスペースの創造
- 新たなモビリティや交通サービスとの連携

施設配置方針



将来イメージ（円形デッキ上からバスターミナルをのぞむ）



※平面図、断面図については、現段階での案であり、今後の調整等により変更の可能性あり

8. スケジュール

近鉄四日市駅西側区間では既に工事に着手しており、2027年の事業完成を目指しています。

将来イメージ（JR四日市駅から鈴鹿山脈をのぞむ）



※現時点の計画に基づくイメージであり、整備内容を決定するものではありません

“ニワミチよっかいち” 中央通り再編基本計画 — 山を望み港へ結ぶ歩きたくなる中央通り —



※現時点の計画に基づくイメージであり、整備内容を決定するものではありません

将来イメージ（近鉄四日市駅から四日市港をのぞむ）

1. 基本計画の目的

基本計画では、下記の4つの目標を達成するために、中央通りの整備方針やデザイン、交通結節点（バスターミナル）のデザイン等を定めます。ここでいう「デザイン」とは、表層の色彩や仕上げのこのみを示すのではなく、施設等のモノの配置・大きさから形態、色彩、仕上げといったハード的な視点に加え、空間の利活用などのソフト的な視点も対象とし、ひとモノの適切な関係性を構築していく行為全般を意味しています。この基本計画は、今回再編を行う中央通り全長約1.6km、幅員70mの広大な空間全体を「デザイン」し、関係者が一丸となってまちづくりに取り組むための指針となるものです。

- | | |
|-----|--|
| 目標1 | まちなかの回遊性向上による賑わいの展開 |
| 目標2 | 都市の魅力・暮らしの質向上による、東海地方をリードする、産業・交流拠点都市の実現 |
| 目標3 | 広域連携強化による交流人口の増加 |
| 目標4 | グリーンインフラの導入や防災機能の向上による環境・防災先進都市の実現 |

2. 基本計画のコンセプト

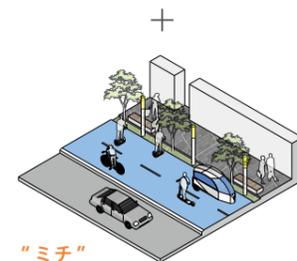
“ニワミチよっかいち”
— 山を望み港へ結ぶ
歩きたくなる中央通り —



“ニワ”

緑・滞在・交流（グリーンインフラ）

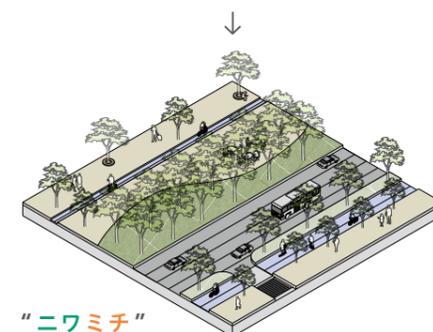
緑とひとの豊かな関係の中で
気兼ねなく時を過ごせる



“ミチ”

交通・移動+滞在+活動の場（ウォークアブル）

居心地がよく歩きたくなる（“WEDO”）



“ニワミチ”

交通・移動+滞在+活動の場+緑・滞在・交流

多様な活動が展開され、居心地がよく歩きたくなる歩行者中心のミチ。緑とひとの豊かな時間をともに育み、気兼ねなく時を過ごせるニワ。（ウォークアブル×グリーンインフラ）

中央通りでは、歴史の中で育まれてきたクスノキ並木の豊かな緑を活かし、自然との関わりの中で質の高い暮らしを実現する「グリーンインフラ」となる“ニワ”に、近年道路空間再編の主流になりつつある、歩行者を中心として交通だけでなく滞在や活動の場といった機能も取り入れた「ウォークアブル」な“ミチ”を掛け合わせた、“ニワミチ”をコンセプトとしました。

“ニワミチよっかいち”という言葉には、緑とひとの豊かな関係をともに育んでいながら、自由に立ち寄り、気兼ねなく時を過ごせる“ニワ”の役割に加え、歩行者中心の考え方に基づきつつ、市民が自分の空間として使い、様々な出来事に出会い、歩きたくするような“ミチ”の役割を担ってほしいという意味が込められています。

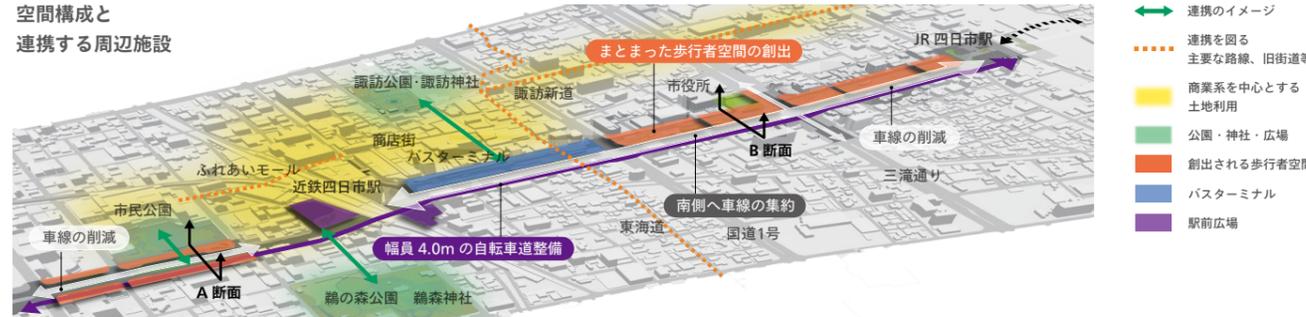
“ニワミチ”の実現は、都市の発展の過程で公害を経験してきた四日市市が、環境先進都市として今まで以上に環境に配慮し、人々に楽しまれ、選ばれ、住みたくなるまちになる「リーディングプロジェクト」となるものです。

3. 4つの視点と中央通りの整備方針

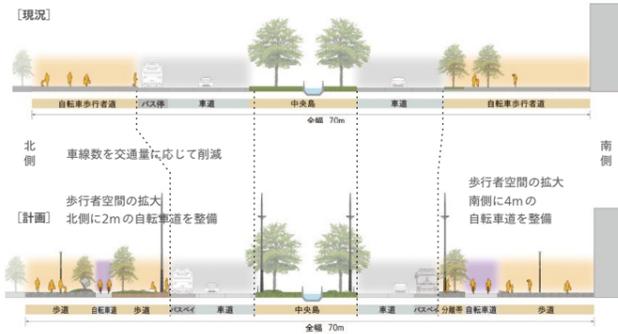
基本構想で整理された3つの視点に「社会情勢の変化への対応」を加えた4つの視点に基づき、中央通りの空間を構成していきます。

視点1 賑わい・もてなし空間の創出と回遊性の向上 「顔・賑わいづくり」	<ul style="list-style-type: none"> 西浦通り～市民公園東区間は、中央島を残し南北の車線数の削減 近鉄四日市駅東～JR四日市駅区間は、南側に車線を集約し、歩行者空間の確保
視点2 まちづくりと連動した交通機能の配置 「交通機能強化」	<ul style="list-style-type: none"> 近鉄四日市駅東側にバスターミナルの集約 周辺の各種公園、バスターミナル、商店街など周辺施設と連携
視点3 中央通りを活用した空間の魅力向上 「空間の魅力向上」	<ul style="list-style-type: none"> 中央通りの歩行者空間を最大化することで、魅力ある空間の創出 クスノキ並木を活かした緑豊かで高質なデザインにより、都市景観形成の軸となる空間の創出
視点4 社会情勢の変化への対応 「スマート化、レジリエンスの向上」	<ul style="list-style-type: none"> 将来的な次世代モビリティの走行を見据えた南側自転車道の整備 災害時などの非常時を想定した、避難空間の確保

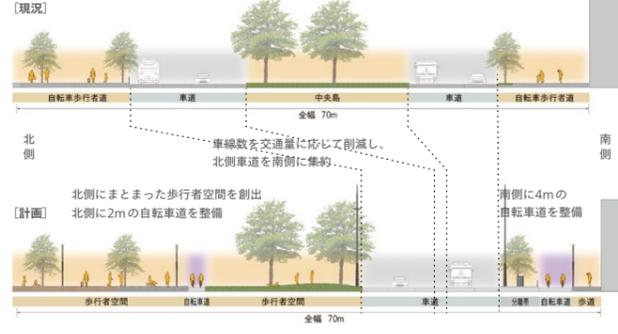
空間構成と連携する周辺施設



西浦通り～市民公園東区間の道路断面 (A断面)



国道1号～JR四日市駅区間の道路断面 (B断面)



4. 共通のデザイン方針

中央通り全体が目指す空間像の目標として「共通のデザイン方針」を設定しています。

1. 空間の使い方	2. 空間の要素と配置	3. 空間の質
目標1 居心地が良く歩きたくなる空間づくり	歩行者を中心とした交通施設の配置	市民の誇りとなる高質な空間の設え
目標2 市域・他都市とつながる一大交通拠点づくり	人が集い、賑わいを生み出す施設の配置	歴史や緑を活かした空間の設え
目標3 最先端の取り組みのショーケースとなる空間づくり	緑あふれる施設配置	使いやすく変性を持った空間の設え

5. 災害時の使われ方

災害リスクに応じて、中央通りの各広場での災害時の使われ方を設定しています。



6. 将来イメージ

近鉄四日市駅西側歩道



- ゆとりある安全に歩くことができる歩行者空間の確保
- まちの賑わいが染み出す動線際の「利活用リザーブ空間」
- 統一感のなかに変化を感じ、歩いて楽しい動線空間“通りニワ”
- 次世代モビリティの走行を想定した連続的な自転車道
- Protected Intersection方式の交差点整備
- 鈴鹿山脈への視線の抜け
- スムーズ横断歩道の整備
- 利用者にわかりやすいサイン



近鉄四日市駅周辺



- 四日市のシンボルとなる円形デッキ
- 利便性の高い交通結節機能
- 乗り継ぎや移動がしやすいバリアフリー動線（バリアフリー対応の歩行者デッキ）
- 市民の憩いの場所となる“まちを眺める上空のニワ”
- 人と自然を結ぶ“ふたつの円の重なり”
- 産業や伝統を活かした“四日市らしいデザイン”
- 東海道の市の賑わいを演出する東海道歩行者広場
- 東海道を遺構表示として示す舗装の切り替え



国道1号周辺



- アーバンスポーツ等市民の生活・文化を豊かにする賑わい交流広場機能
- まちの賑わいに出会える「気軽に使える」「使いたくなる」7つの歩行者拠点広場“みんなのニワ”
- すぐに見つかる「一休みできる場所」「わたしのニワ”
- 座りたくなる居心地の良い「座り場」・自然を感じることができる「休める場所」“あなたのニワ”
- 祭り等大規模イベント、子供の遊び場

